

第 14 期（2024 年 7 月～2025 年 6 月）事業計画・予算

第 14 期事業計画

1. MELON を取り巻く情勢

- (1) すでに世界的に平均気温の上昇、雪氷の融解、海面水位の上昇が観測されており、2023 年の夏は世界各地が記録的な熱波に見舞われ、アントニオ・グテーレス国連事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が来た」と警鐘を鳴らしました。世界中が「2050 年カーボンニュートラル」の実現をめざして、さらなる取り組みを進めています。
- (2) 気候変動の影響は、生物多様性の損失につながる可能性があると言われており、2030 年ネイチャーポジティブ¹⁾ 達成に向け、その対策の必要性が世界中の共通認識として広まっています。
- (3) 日本国内では、引き続きグリーントランスフォーメーション (GX)²⁾ 関連政策の整備が進められています。環境省が 2022 年より「脱炭素につながる新しい豊かなくらしを創る国民運動」を立ち上げ、その愛称が「デコ活³⁾」に決まりました。
- (4) 宮城県では、2023 年 11 月に「ダメだっちゃ温暖化みやぎ県民会議」の後継として「みやぎゼロカーボンチャレンジ 2050 県民会議⁴⁾」が設立され、市民、事業者、行政が幅広く参加、連携し、対策を積極的に推進することが求められています。

2. 第 14 期事業の基本方針

公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（以下「MELON」）は、「地域の自然環境及び水環境、地球環境並びにくらしに関する調査、研究を実践し、広く県民に対して地域と地球環境に関する学習及び活動の場の提供を行い、もって地球環境の保全に寄与する（定款第 3 条）」ことを目的として事業に取り組むとしています。

この事業目的を全体方針として、設立から 31 年目（2024 年 7 月）に入る MELON の第 14 期事業を、以下の基本方針を持って取り組みます。

- (1) MELON を取り巻く情勢に示した背景を踏まえ、市民、事業者、行政、学校など様々な主体へ、脱炭素につながる快適でゆたかなくらしのイメージを共有しながら、解決のためのアクションを可視化して提案していきます。
- (2) 脱炭素社会の実現に向けて、これまで通り一般市民への啓発活動を継続するとともに、事業者と連携した活動の模索や事業者向けの啓発活動にこれまで以上に注力していきます。国連が提唱する SDGs⁵⁾の達成をめざし、効果が測定できる実効性のある活動を検討・実施します。
- (3) 「脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の形成に関する事業」「環境を主とする SDGs 教育の推進に関する事業」を柱に、宮城県地球温暖化防止活動推進センター（以下「ストップ温暖化センターみやぎ」）事業として複合的に取り組んでいきます。
- (4) 環境省からの請負事業である東北環境パートナーシップオフィス（以下「EPO 東北」）は、運営第 6 期の 3 年目となり MELON の運営が 15 年目に入りました。事業内容の多様化により求められるハードルは年々高くなりますが、引き続き東北地方 ESD 活動支援センターの運営と、SDGs をツールとした協働や環境教育の推進、環境政策の支援など、東北地域の環境団体・教育機関・自治体・企業等の協働を推進します。

- 1) ネイチャーポジティブ：自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること。2022年12月に新たな生物多様性に関する世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、その中で2030年ミッションとして掲げられている。
- 2) グリーントランスフォーメーション（GX）：地球温暖化や環境破壊、気候変動などを引き起こす温室効果ガスの排出を削減し、環境改善と共に経済社会システムの改革を行う対策のこと。
- 3) デコ活：環境省の「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称。脱炭素の「デカーボナイズーション」と環境に優しい「エコ」を掛け合わせた活動のこと。
- 4) みやぎゼロカーボンチャレンジ2050 県民会議：「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050 戦略（計画期間：2023年度～2030年度）」の目標達成に向けて設立された。宮城県では、温室効果ガス排出量を2030年度までに基準年度（2013年度）比で50%削減することを目標に掲げている。
- 5) SDGs：(Sustainable Development Goals) 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。

3. 活動内容ごとの計画

(1) 脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の形成に関する事業

① 普及啓発

- 1) ストップ温暖化センターみやぎの事業を基盤に、地球温暖化の現状と対策の重要性について、講演会・フォーラム・ワークショップ・地域イベント出展などを通じて、市民が学習できる場や情報交流の機会を提供していきます。
- 2) 水・食・森林・4Rや海洋ごみ、食品ロスなどの暮らしに関するテーマ・社会課題について情報提供や学習機会の提供を行います。

② 調査研究

- 1) ストップ温暖化センターみやぎの事業を基盤に、県内の日常生活に基づく温室効果ガスの排出実態やライフスタイル等を取りまとめ、地球温暖化防止活動推進員の活動や自治体の施策等への活用を促します。
- 2) 「身近な水環境の全国一斉調査」に参加して、広瀬川の水質調査・水辺観察を実施し、結果を発信します。
- 3) 調査結果を記録し、教材にまとめて活用することを検討します。

(2) 環境を主とする SDGs 教育の推進に関する事業

MELONが学校と外部をつなぐ役目を果たしてSDGsに関する学習を支援することにより、教育を通して持続可能な社会の創り手の育成をめざします。ウェブサイト「みやぎのSDGs環境学習支援」で学校に周知するとともに、企業・団体等を学校現場につないでいきます。

① SDGs 環境出前講話（1日完結型）

宮城県内の小中学校、高校等で出前講話を実施します。

キリバス編、南極編、環境・防災編（気候変動、電気、再生可能エネルギー、食品ロス、海洋ごみ、防災など）、より多彩な講話を提供していきます。

② SDGs 教育プロジェクト（通年型）

- 1) エフピコ環境基金の助成を受けて、特定の小学校において継続して学習全体の支援を行います。支援の内容は、出前講話を核としながら学校との打合せによって決めています。
- 2) 企業・団体と協働で学習プログラムの作成などを行い、学校での出前講話につなげていきます。

③ その他の学習の機会の提供

広く市民に対して（事業者を含む）、SDGsに関する講演会・フォーラム・ワークショップ・地域イベント出展などを通じて、学習や情報交流の機会を提供していきます。

4. 外部との連携・協働に関する計画

(1) 多様な活動主体との協働

- ① 事業実施において、多様な団体・教育機関及び自治体・事業者や地球温暖化防止活動推進員等と連携・協働して進めていきます。
- ② 2018 年に取り交わされた「地球温暖化防止活動推進の連携と協力に関する協定書」に基づき、NGO キリバス気候アクションネットワーク（以下、KiriCAN）と連携・協働していきます。

(2) 政策提言や各種会議等への参画

- ① 国・宮城県・仙台市などの環境問題に関するパブリックコメント募集をチェックして、政策提言委員会委員の確認のもと MELON 理事の知識・経験を生かし、有効なパブリックコメントを提出します。パブリックコメント以外にも提言すべきテーマについて、必要に応じて提言を行います。
- ② 環境省・宮城県・仙台市などを始めとする行政・他団体の各種会議へ委員として参画し、MELON の理念・目的が反映されるよう取り組みます。
- ③ 行政・他団体の主催する環境事業の中で、MELON の活動方針にあった事業に積極的に参加します。

5. 法人運営

(1) 広報活動の強化

- ① 国・宮城県・仙台市・関係団体等から寄せられる環境に関する有用な情報、並びに MELON の事業及び運営に関する情報を、情報センター及び専任事務局がウェブサイト等においてわかりやすく定期的に発信します。
- ② MELON の活動や環境に関する情報を集約し、希望者へメールマガジン「MELON news」を無料で配信するとともに、会員同士の自由な情報交換の場としてメーリングリスト「MELON-net」を提供します。
- ③ これまで紙媒体として制作し定期的に送付していた「MELON 情報紙」を環境の観点などから見直し、ウェブ配信へ変更します。

(2) 会員と活動資金の計画

① 会員への取り組み

活動を継続的に支えてくれる会員に対し、定期的な活動報告を実施します。また、会員有志の自主的な活動が発生した場合に支援できるよう検討を行います。

② 活動資金の確保

- 1) 会費 570 万円・寄附金 130 万円を見込んで活動します。
- 2) 安定した財源基盤の確保のために、寄附・入会（特に企業会員）の増加を図る方策を検討します。
- 3) 行政およびその他組織の委託・助成・請負事業等について内容をよく吟味し、意義のある受託・事業参加の実現をめざします。

(3) 組織運営

① 公益財団法人としての役員会体制

公益財団法人として法律で規定された評議員会・理事会・監事会の役割と責任をはたせるように役員が自覚的に取り組むとともに、専任事務局がサポートを行います。

② 事務局体制の充実

- 1) 各協同組合事務局と専任事務局がそれぞれの役割を果たし、MELON の活動を推進します。
- 2) 会員や市民がボランティアスタッフとして活躍できるよう、ボランティアが参加しやすい体制づくりをめざします。

(4) 職員の労働環境の改善

- ① 働き方改革の理念にのっとり、有給休暇の取得や、育児・介護による休業・時短制度などを活用しやすい職場環境と体制づくりをすすめます。
- ② 業務の効率化やライフワークバランスを考慮し、在宅勤務の活用など効率的な働き方を推進します。

6. 組織ごとの個別計画

(1) 宮城県地球温暖化防止活動推進センターの活動（資料1）

「地球温暖化対策の推進に関する法律」第11条に基づき、宮城県より指定を受けている宮城県地球温暖化防止活動推進センター（ストップ温暖化センターみやぎ）として宮城県環境生活部環境政策課、全国地球温暖化防止活動推進センター、地域地球温暖化防止活動推進センターなどと連携し、気候変動の緩和策・適応策を推進します。

(2) 東北環境パートナーシップオフィスの活動（資料2）

「環境教育等促進法」第19条に基づき、環境省と協働運営する中間支援組織の東北環境パートナーシップオフィス（EPO 東北）として、東北6県の環境団体・教育機関・自治体・企業等の活動支援や情報交換等を行います。

第14期ストップ温暖化センターみやぎ活動計画

1. 基本方針

気候変動により、世界中で異常気象が頻発しています。国連事務総長が2023年7月の記者会見において「地球沸騰化の時代が到来した」と発言。世界の平均気温は観測史上最高記録となりました。

環境省は「2050年カーボンニュートラル及び2030年度温室効果ガス削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押し」するため、2022年から新しく「デコ活」を展開しています。

上記を踏まえ、ストップ温暖化センターみやぎとして県民・事業者それぞれが脱炭素社会につながる意識変革を行い、二酸化炭素排出量削減につながる行動変容を後押しする必要があります。そのためにも、宮城県地球温暖化防止活動推進員（以下推進員）、行政、他団体、教育機関とより一層の連携・協働により、下記の項目に沿った活動計画により、気候変動対策の推進を図ります。

- (1) 「デコ活」の普及・推進
- (2) 行政、他団体、教育機関との連携強化及び行政等への提言
- (3) 推進員の募集、活動の支援・連携

2. 活動計画

- (1) 委託・補助事業
 - ① 法律に基づく地域地球温暖化防止活動推進センターの役割を遂行するため、地域における地球温暖化防止活動促進事業(環境省補助事業)を実施します。
 - ② 低炭素ライフスタイルを促進するため、うちエコ診断実施支援事業(宮城県補助事業)を実施します。
- (2) 環境を主とするSDGs教育の推進に関する事業
※ 詳細は P41 3.活動内容ごとの計画 (2) 環境を主とするSDGs教育の推進に関する事業を参照
- (3) 環境学習・地域イベント
 - ① 推進員と連携し、小中学校、高校、企業、その他団体を対象に環境学習への講師派遣を行います。
 - ② 行政、他団体と連携し、推進員と連携しながら地域イベントへの出展などの普及啓発を行い、行動変容を促します。
 - ③ 気候変動問題に関する科学的知見や世界の動向の最新情報について、広く県民へ普及啓発を行い、行動変容へ繋げるためのイベントを開催します。
- (4) 広報
事業を円滑に遂行するために、ウェブサイトや情報紙、メディア等を活用し広報活動を行います。
- (5) 行政・他団体との協力
 - ① 「みやぎゼロカーボンチャレンジ 2050 県民会議」への参加を通じて、県内自治体での地球温暖化対策の推進を図ります。
 - ② せんだい E-Action 実行委員会への参加を通じて仙台市内での地球温暖化対策の推進を図ります。
 - ③ 全国地球温暖化防止活動推進センター、地域地球温暖化防止活動推進センターとの情報交流を図ります。
 - ④ 省エネや再生可能エネルギーの普及等に取り組む他団体との連携・協力を図ります。
 - ⑤ 「宮城県気候変動適応センター」へ連携・協力を働きかけます。
- (6) 提言活動
環境省、宮城県、県内自治体での取り組みについて、パブリックコメント等の機会を活用し評価や提言を行います。
- (7) 運営委員会
運営委員会のこれまでの成果・意義を総括するとともに、あり方の見直し・検討を行います。
- (8) 事業資金獲得に向けて
行政及びその他組織の委託・助成・請負事業等の獲得に向けて努力します。